



平成 17 年 11 月 21 日

各 位

会社名 シダックス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 志太 勤一
 (JASDAQ コード番号 4 8 3 7)
 問合せ先 取締役 経理財務本部長 兼 IR 担当
 荻野 裕
 (TEL . 0 3 - 5 7 8 4 - 8 9 0 9)

平成 18 年 3 月期中間 (連結 ・ 単体) 業績予想の修正について

平成 18 年 3 月期 (平成 17 年 4 月 1 日 ~ 平成 18 年 3 月 31 日) の業績予想について、平成 17 年 5 月 27 日付当社「平成 17 年 3 月期 決算短信 (連結) 」及び「平成 17 年 3 月期 個別財務諸表の概要」にて発表いたしました業績予想を下記の通り修正いたします。

記

1 . 平成 18 年 3 月期 (連結) 業績予想の修正

(1) 中間期 (平成 17 年 4 月 1 日 ~ 平成 17 年 9 月 30 日)

(単位 : 百万円、 %)

	連結		
	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A)	79,000	1,700	1,600
今回の修正予想(B)	79,071	2,451	770
増減額 (B - A)	71	751	829
増減率 (%)	0.1%	44.2%	-
(ご参考) 前期中間期実績	74,456	892	209

(2) 修正理由

売上高につきましては概ね計画どおりに推移致しました。また、グループ全体で進めております収益構造の改革において、材料費・労務費の原価管理の徹底と店舗運営経費の見直し及び間接部門を中心とした販管費の適正化が着実に進んだことで、計画を上回る経費削減を達成することが出来ました。この結果、経常利益は 2,451 百万円となり当初予想に比べ 751 百万円増加する結果となりました。また、固定資産の減損会計適用による特別損失の計上額が当初予想を下回る 2,501 百万円となったこと等を主要因として、中間純損失は 770 百万円となり当初予想に比べ中間純損失が 829 百万円減少する結果となりました。なお、前中間期との比較では、全ての事業セグメントにおいて当中間期の収益性は改善致しました。これにより競合激化のなかコスト競争力が着実に増すとともに、当社グループの水平垂直統合型事業戦略の要であるエスロジックス事業においては統一メニューと統一食材の連動がより完成度を高めるなど、事業拡大の基盤強化を着実に果たすことが出来ました。

2. 平成 18 年 3 月期（単体）業績予想の修正

(1) 中間期（平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 9 月 30 日）

（単位：百万円、％）

	単体		
	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A)	4,200	1,700	1,400
今回の修正予想(B)	4,211	1,832	1,535
増減額(B-A)	11	132	135
増減率(%)	0.3%	7.8%	9.7%
(ご参考) 前期中間期実績	4,834	1,999	1,895

(2) 修正理由

前年度より当社グループ全体で進めております販管費の適正化が着実に進んだことで、計画を上回る経費削減を達成することが出来ました。これを主な要因として、経常利益及び中間純利益はそれぞれ 1,832 百万円及び 1,535 百万円となり当初予想に比べそれぞれ 132 百万円及び 135 百万円増加する結果となりました。

なお、平成 18 年 3 月期通期（連結）及び（単体）の業績予想につきましては、修正はございません。

（注）上記の予想は現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上